

# 万博公園探鳥会

2023年11月11日(土)

リーダー 田中宏・中筋好子・橋本昌宗・大矢麻由美  
有賀憲介・平軍二(090-6901-1425)

## I 千里の鳥・万博の鳥「ノビタキ」

(野鳥写真 橋本昌宗)



(東南アジアへ向かって)に移動していて公園内にいないが、確認数が多かったこともあり、記録として紹介しておくことにした。

万博公園はノビタキの好む草はらが狭いこともあって、探鳥会を開始して39年間での観察回数は20回程度、すなわち2年に一度程度にとどまっており、しかも1羽か2羽なので、先月探鳥会での個体数は非常に稀な記録となった。

ノビタキは体長13cmとスズメよりやや小さい小鳥。夏鳥として北海道(全域)、本州中部～北部の高地にある草原・農地などで繁殖・子育てをしており、10月頃越冬地への南下時に万博公園などの大阪近郊を通過していく。

万博公園でノビタキを観察できるのは、「もみじ川」～「砂の広場」・「みずすましの池」などの草はらであるが、10月は何と5羽も確認し、万博公園探鳥会での初記録となった。ノビタキはすでに南国

(平:万博公園探鳥会記録より)

ノビタキは草はらで、背の高い草の上から地上に飛びおいてエサを探す行動がよく見られるが、昆虫類やその幼虫が主食になっている。

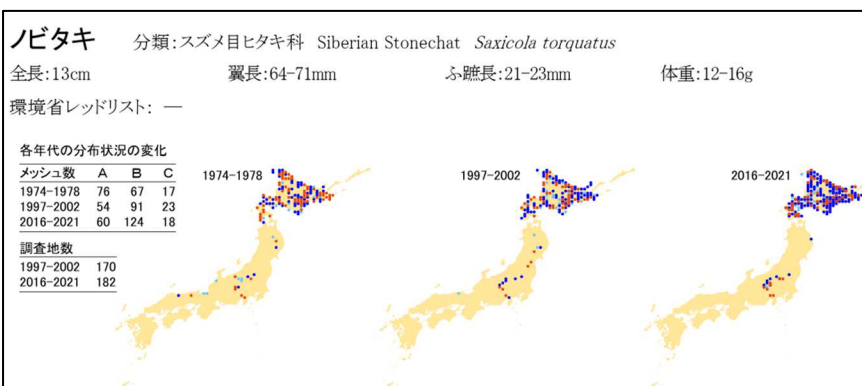
さて11月は、秋の渡り(夏鳥の渡去)が終わり、冬鳥が到着する季節。ジョウビタキ・ツグミ・アトリ・アオジなどとの出会いを楽しみに探鳥会を開催したいと思っている。

## I-②大阪府鳥類目録2016(日本野鳥の会大阪支部)→

大阪府内のノビタキの秋の渡りは左図の通り、ほぼ全メッシュで確認されている。渡りのノビタキが休める草地(農地を含む)が、府内一円にあるとわかる。



## I-③全国鳥類繁殖分布調査報告2016-2021年・ノビタキ↓



本州中部・北部の高地と北海道の全域に夏鳥として分布する。本州では主に高原で繁殖し、北海道では海岸草原や農耕地などの開けた環境で繁殖する。1990年代から2010年代にかけて、本州ではメッシュ数が減少していた

が、北海道では記録メッシュ数が増加していた。



## Ⅱ 先月 10/14 万博探鳥会結果

(野鳥写真 橋本昌宗)

秋の真っ盛り、モズの高鳴きがあちこちで聞くことができ、林で秋の渡り鳥はコサメビタキ何回も出てくれたが、ムシクイは出なかった。食事後、下津道の「もみじ川」上流～下流の「砂の広場」にかけノビタキが飛び交った。更に「砂の広場」の池には冬鳥のトップバッター「コガモ」が 1 羽浮かんでおり、「みずすましの池」にカワセミも出てくれた。ゆっくりノビタキを楽しんでいるとき急な雨、「水の広場」近くの四阿(あずまや)でやり過ごしたあとの小雨の中、「大地の池」北東の柵にいたのは、何と冬鳥ジョウビタキであった。

朝の天気予報で雨は 15 時からとなっていたが、13 時頃に俄か雨があり、小降りになったもののやみそうになく、日本庭園中央休憩所で鳥合わせのあと解散とした。

尚、2022 年冬鳥のジョウビタキは 2023 年 3 月で渡去したが、6 月に渡りの途中と思われる個体を確認、そして今月は 2023 年冬鳥としての初渡来を確認、今冬のジョウビタキが楽しみである。



↑モズ                      コサメビタキ ↑  
↓ジョウビタキ              コゲラ(赤い眉班) ↓



## Ⅲ 緑整備部会による森づくり経過 (3-2, 3-13, 3-30, そして3-15~22 伐採)

先月も説明したが、万博公園の樹木管理は  
 第 1 期 植えた木が育てる管理  
 第 2 期 自立した森づくり(人工ギャップ方式)  
 第 3 期 樹林タイプを決め健全な森づくりと変遷してきた。  
 第3期(緑整備部会検討)に入って右図 3-2・13・30、そして最近は(3-15~22)が伐採されている。何れも、橙色枠の**保全・利用林**区域である。

今週、万博事務所 HP に、**令和5年度万博記念公園運営審議会・緑整備部会**が開催されることが広報された。

- ・令和5年11月14日 10:00~12:00
- ・万博記念公園事務所4F 第2応接室
- ・傍聴定員 10名

平は傍聴を予定しています。  
 どなたか傍聴のご希望があれば、ご一緒にしませんか。

